

太母よ

小林守城

芽吹きるときはだんだんと
始まるのが作法ではないか

太母よ

背戸の雪がまだ消えぬうち
杉が花粉をまき散らさぬよう
霜柱の耕す堆土が 鎮まるまで

太母よ エレファントム *

何かの始まりには終わりの予兆を
アフリカの太古から そつと
見せてきたのではかったか

太母よ その時節になれば
はつきりと見識できよう

天空に浮きたつ椗の梢の梵字形

遊民は自在に時を弄び
もう既に あるいは不意に
途切れることにも慣れてきた

されば

仕度など必要はないが
それでも、しばし許されよ
待つことは慈しみの作法である

太母よ

その時には離陸しよう
天を衝く卒塔婆
椗の梢の梵字菩薩

*「エレファント」 ライアル・ワトソン著